

二七電話詐欺 県内1~7月

止まらぬ被害 124件増の742件

二七電話詐欺の被害が止まらない。今年一〜七月末現在で、県内での認知件数が前年同期比で百二十四件増の七百四十二件に上ることが、県警のまとめで分かった。一千万円以上の高額被害も相次いでいる。未然に食い止めようと、船橋市ではNTTが開発した通話解析システムを活用し、対策に乗り出す。

(鈴木みのり、保母哲)

船橋で未然防止へスクラム

県警によると、手口別では、親族などをかたって金をだまし取る「オレオレ詐欺」が二百四十五件(前年同期比五十七件増)で最多。被害額は約七億七千万円に上り、全体の半分以上を占めている。

医療費や保険料の払い戻しをうたい、被害者に電話で指示しながら現金自動預払機(ATM)を操作させて振り込ませる「還付金詐欺」は百六十三件(同五十二件増)。過去五年間で最多となった。営業時間外の銀行や商業施設など、利用者への目が行き届きにくいATMでの発生が目立つという。一千万円以上の高額被害は二十件。



二七電話詐欺を防止する機器のデモンストレーション＝船橋署で

AIが通話解析→家族らに通報 NTTのシステム活用

このうちオレオレ詐欺が十五件を占め、約四千二百万円をだまし取られる例もあった。

二七電話詐欺の被害者約六百人を対象に実施したアンケート結果によると、オレオレ詐欺や還付金詐欺の手口について「知らなかった」と答えた人が三割を超えた。県警の担当者は「留守番電話の設定促進や素早い被害情報提供のほか、注意喚起をする際には、分かりやすい手口の説明を心掛けた」と語る。

続発する被害を防ぐと、船橋署、船橋東署、両署の管内防犯組合連合会、船橋市、NTT東日本千葉西支店は一日、NTTが開発した「特殊詐欺対策サービス」のデモンストレーションを行った。今後、試験的に被害に遭う可能性のある市内の高齢者を選び、機器の設置費を負担することで、導入効果をみる。

NTTが二〇二〇年十一月から提供している同サービスは、自宅などの固定電話の通話内容を人工知能(AI)が解析。詐欺の疑いのある会話を検出した場合、事前に登録した家族らに自動音声やメールで連絡する仕組みだ。デモンストレーションでは、犯人役や高齢者役を交えながらNTT社員が機器を説明。両連合会会長の松戸徹市長は「(二七電話詐欺は)大切な老後の蓄えを奪う卑劣な犯罪であり、市民を守る体制整備を進めたい」と話した。

『東京新聞』2022年9月6日付16面